

## 硫黄島調査特別委員会速記録

平成29年12月13日（水曜日）午前11時開会

### 出席委員（6名）

委員長	杉田一男君	副委員長	安藤重行君
委員	稲垣勇君	委員	鯉江満君
委員	一木重夫君	委員	清水良一君

---

### 委員外出席議員（1名）

議長	池田望君
----	------

---

### 出席説明員

村長	森下一男君	副村長	渋谷正昭君
教育長	松本隆君	総務課長	セーボレー孝君
総務課副参事	杉本重治君	総務課 企画政策室長	樋口博君
財政課長	江尻康弘君	村民課長	村井達人君
医療課長	佐々木英樹君	産業観光課長	牛島康博君
環境課長	深谷雪雄君	建設水道課長	繁藝則仁君
母島支所長	湯村義夫君	教育課長	持田憲一君

---

### 欠席説明員（1名）

建設水道課 副参事	岩本弘幸君
--------------	-------

---

### 事務局職員出席者

事務局長	大津源君	書記	萩原佳代君
------	------	----	-------

## 議事日程

日程第1 FCLP（空母艦載機離着陸訓練）（日米再編含む）について

日程第2 その他の訓練について

日程第3 遺骨収集帰還事業について

日程第4 その他

日程第5 閉会中の継続調査について

---

◎開会の宣告

○委員長（杉田一男君） ただいまから硫黄島調査特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前11時）

---

◎会議時間の延長

○委員長（杉田一男君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

---

◎説明員の出欠について

○委員長（杉田一男君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（大津 源君） ご報告いたします。

本日の委員会の説明員は、建設水道課、岩本副参事が欠席で、それ以外については全員が出席との通知がありました。

以上です。

---

◎FCLP（空母艦載機離着陸訓練）（日米再編含む）について

○委員長（杉田一男君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、FCLP（空母艦載機離着陸訓練）（日米再編含む）について、執行部からの報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 9月13日の前委員会以降の経過について、ご報告いたします。

初めに、FCLP（空母艦載機着陸訓練）につきましては、実施されておられません。

報告は以上でございます。

○委員長（杉田一男君） FCLPについては実施なしということで、ご了解いただきたいと思えます。

---

◎その他の訓練について

○委員長（杉田一男君） 次に、日程第2、その他の訓練について、執行部から報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） その他の訓練について、ご報告いたします。

初めに、HRS訓練。これは海面を漂流する遭難者を、ヘリコプターから降下救助する訓練でございますが、9月22日、11月9日に実施されております。

次に、HRS訓練及び潜水訓練、これにつきましては10月10日から11日に実施されております。

次に、LCAC訓練。こちらにつきましては、ちょっと訂正いただきたいんですけども、12月11日から12日の2日間で実施されました。また、2月3日から6日まで実施が予定されております。

その他の訓練につきましては以上でございます。

○委員長（杉田一男君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。ございませんか。

1つだけちょっと聞きたいんですけど、この訓練は村から誰か立ち会っていますか。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） この訓練というと、LCACではなくてHRSの訓練あるいは潜水訓練かと思えますけれども、こちらにつきましては立ち会ってはおりません。

○委員長（杉田一男君） 質疑はもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

---

#### ◎遺骨収集帰還事業について

○委員長（杉田一男君） 次に日程第3、遺骨収集帰還事業について、執行部からの報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 遺骨収集帰還事業について、ご報告いたします。

初めに、滑走路地区の掘削立ち会い。これは通年実施予定で進めておりますけれども、第13回から第20回までの期間ですけれども、9月22日から12月11日まで、この期間で実施されております。

次の第21回ですけれども、こちらにつきましては12月11日から22日ですので、現在実施中

でございます。

次に、第22回目から次のページの第28回までですが、こちらにつきましては来年の1月9日から3月22日までの記載されたとおりの日程で実施される予定でございます。

また、遺骨収集、こちらにつきましては、年4回実施予定でございます。そのうちの第3回目が11月22日から12月6日の期間で実施の予定でしたが、こちらにつきましては中止となりました。その理由につきましては、ことしの8月ごろまでの渇水の影響により、今年度実施予定の滑走路地区及び外周道路側の掘削調査が遅れて、これまでに新たに収容を必要とする壕等が発見されないことから中止ということになったという報告を受けております。

第4回の遺骨収集ですけれども、来年1月31日から2月14日に実施される予定でございます。

次に、平成29年度の遺骨引渡式ですが、2月15日に千鳥ヶ淵戦没者墓苑で実施される予定でございます。

遺骨収集帰還事業につきましては、以上でございます。

○委員長（杉田一男君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

清水良一委員。

○委員（清水良一君） この千鳥ヶ淵戦没者墓苑での遺骨引渡式というのは、村の方は出ているのでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 基本的に、村長が出席しますけれども、出られないときには代理が出るということにしております。

あと、小笠原村在住硫黄島旧島民の会からの出席もあります。

○委員長（杉田一男君） ほかにございませんか。

（挙手する者なし）

○委員長（杉田一男君） 質疑はもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（杉田一男君） 次に、日程第4、その他の事項として、執行部から報告を求めます。  
総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） その他について、ご報告いたします。

1点目が基地交付金・調整交付金の決定についてでございます。

基地交付金、平成29年度7,069万9,000円です。平成28年度7,506万円、差額はマイナス436万1,000円です。調整交付金4,370万9,000円、平成28年度4,600万9,000円、差額マイナス230万円。合計でございますけれども、平成29年度、1億1,440万8,000円。平成28年度、1億2,106万9,000円。差額、マイナス666万1,000円でございます。

この減額の理由につきましては、今回につきましては、平成29年3月31日、基準日におきまして、南鳥島における新規の対象資産の増加分があったものの、減額分が上回り、資産は減額、マイナス5.8%でございます。内訳は土地がマイナス0.8%、建物がマイナス3.7%、工作物がマイナス10.7%となり、全体に占める小笠原の対象資産価格の割が低くなったことが要因と考えられる。ただし、評価額の減額率に比べ、交付金額の減額率はマイナス5.5%と少ないということになってございます。

次に、特定防衛施設周辺整備調整交付金交付額の決定についてでございます。

交付金額、平成29年度5,781万6,000円。平成28年度5,916万8,000円、差額マイナス135万2,000円。こちらにつきましては、平成23年度に硫黄島飛行場施設が特定防衛施設として指定されたことに伴い、交付されることとなった交付金でございます。

また、減額となった理由は、本年4月1日現在の人口が、5年前の4月1日現在の人口を下回ったことに起因するものでございます。

報告は以上でございます。

○委員長（杉田一男君） 3番はいいのか。

○総務課長（セーボレー孝君） 失礼しました。

その他、3ページに引き続いており、報告いたします。

硫黄島島民平和祈念墓地公園管理事業、年6回実施予定のものでございますけれども、こちらにつきましては第3回目の事業が11月4日から8日の期間で実施されました。従事者は小笠原村在住硫黄島旧島民の会5名、村職員1名。

次に、第4回目の事業でございますけれども、12月15日から19日。こちらにつきましては実施の予定でございます。従事予定者は小笠原村在住硫黄島旧島民の会5名、村職員1名

で予定しております。

次に、硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参でございますけれども、東京都主催のもので、期間が11月16日から17日の期間で実施されました。参加者42名。内訳でございますけれども、本土在住旧島民26名、村在住旧島民2名、引率職員14名で参加しました。

次に、硫黄島戦没者慰霊追悼式、こちらにつきましては、硫黄島協会が主催のものでございますけれども、期間が12月9日に実施されております。参加者55名で、内訳が硫黄島協会会員27名、それから国会議員の被推薦者が28名、そして職員が参加しております。

次に、硫黄島戦没者追悼式、東京都主催のものでございますけれども、1月18日に予定されております。参加予定者は55名、主催者、来賓等で20名、遺族で約35名。

次に、硫黄島慰霊巡拝事業、厚生労働省主催のものでございます。第2次慰霊巡拝が2月21日。募集人員100名で実施が予定されております。

次に、硫黄島の行政視察についてでございますけれども、執行部と議会の議員とで行くということで、調整しておりますけれども、来年2月14日、15日に内地から硫黄島のほうに視察に行くということで、現在調整している最中でございます。

報告は以上でございます。

○委員長（杉田一男君） ただいまの報告について、質疑意見のある委員は挙手をしてください。ございませんか。

安藤重行副委員長。

○副委員長（安藤重行君） 今行政視察の話があったんですが、第1案は14日、15日、第2案がたしか21日となっていたと思うんですが、もしこの第2案になった場合は、巡拝というのと重なるかなと思うんですが、100名と一緒に行くということでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 第1案で行くことが最優先ということで考えていまして、極力そちらで行く方向で考えております。今、安藤副委員長がおっしゃった慰霊巡拝と重なるという意見もありますけれども、そちらについては確認しておきますが、執行部と議会で打ち合わせした内容につきましても、14日、15日で、極力行く方向で今後とも調整を進めていきたいと思っております。

○委員長（杉田一男君） ほかにございますか。

（「その他ということよろしいですか」と呼ぶ者あり）

○委員長（杉田一男君） その他はまだ。

(「その他です」と呼ぶ者あり)

○委員長(杉田一男君) その他のその他になっているわけ。この後にその他がある。それは委員が聞きたいこと発言してもらって結構です。その他、今の部分において質問ありますか。

(挙手する者なし)

○委員長(杉田一男君) 質疑はないようですのでこれにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(杉田一男君) 異議なしと認めます。

次に、その他で委員の皆さんから何かございますか。

清水良一委員。

○委員(清水良一君) 今年度は訪島事業ができなかったということですが、来年度に向けて、どんな感じで進展していくのか、まだ情報がわかってない部分があると思うので、わかる範囲で教えていただきたいと思います。

○委員長(杉田一男君) 総務課長、セーボレー君。

○総務課長(セーボレー孝君) 来年の硫黄島訪島事業につきましてでございますけれども、今まで議会、それから委員会でも中止になった経緯等説明してまいりましたけれども、その後、海洋に錨を下ろす、錨泊ですね、錨泊での訪島事業の実施について申し入れた結果、錨泊に当たって一定の条件が村のほうに示されて、村におきましてはその条件をクリアするために関係方面と、いろいろと調整しております。何とか来年度実施ができるように、今後とも努力してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○委員長(杉田一男君) 村長、何か補足することがあれば。

村長、森下君。

○村長(森下一男君) ただいま、総務課長から報告をさせていただきました。おがさわら丸で錨泊によるということで、今小笠原海運から錨泊による墓参のための条件が出されて、報告にありましてとおり、それを何とかクリアするために今いろいろ手続をしているところですが、小笠原海運からいただいた条件が、私から見ますと大変厳しい条件でございますので、総力を挙げてこれがクリアできるのかどうかということ、現在はやっているとございます。

○委員長（杉田一男君） 清水委員、何かある。

清水良一委員。

○委員（清水良一君） 来年度は小笠原村にとっても節目の年ということで、返還50周年。この硫黄島については、まことに僭越ではございますが、私が言うまでもなく硫黄島から何か発信していくということが重要ではないかと感じます。

もし訪島事業がなかなか難しいのであれば、それに代わる何かということも、今のうちから考えていくということが重要ではないかなと感じるんですが、できれば訪島事業を何とか成功裏に収められればいいとは思いますが、その辺がもうちょっと聞きたい部分でございませう。

○委員長（杉田一男君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） おがさわら丸による墓参を第一義には考えていますが、これも今まで答弁させていただきましたように、いろいろなことを想定して、実現の努力をしてみたいと、このように思っております。

○委員長（杉田一男君） 清水良一委員。

○委員（清水良一君） 厳しい感じで進んでいるようなところで、何か厳しいのかなと思えますが、節目の返還50周年ということで、例えば硫黄島から発信という意味で、私が言うのも本当に僭越なんですけど、今小笠原諸島が世界自然遺産になっておりますが、世界遺産という枠組みの中で、硫黄島だけが世界自然遺産ではないということで、これを世界文化遺産という形で、例えば広島の実験ドームやアウシュビッツの収容所なども、第二次世界大戦の負の遺産という形で登録になっているということもあるので、そういった側面からも何かこう、アピールをする方法もあるのではないかと。

かなりフラッシュアイデア的で恐縮なのですが、そういったことも含めて考えていく方法あるのではないかとということでいかがでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 基本的に私の考えは、小笠原に返還されたけれども、帰れない硫黄島の旧島民の皆さんの訪島を第一に考えております。そういうところからスタートをして、おがさわら丸による訪島が実現したことによって、子供たちや一般村民も一緒に行くことができました。

ですから、まずはそれを第一義に考えておりますが、これが難しかった場合、少なくとも旧島民の皆さんに行っていただいて、きちんと硫黄島で慰霊をしていただくということ、

シミュレーションの一つには、そういうことを幾つか考えているということでございまして、そういう過去の歴史が小笠原村が平和都市宣言をした理由でございまして。

今清水委員がおっしゃったような形で、平和都市宣言を、硫黄島を、世界にアピールするということは、私の中ではなかった発想でございしますが、返還50周年を機に未来に向かっていろいろなお考えがそれぞれあると思いますから、そこは素直に拝聴はしていきたいと思いますが、私が現在考えているのは、あくまでも、旧島民の皆さんが返還50周年というこの節目の年に、まずはきちんと、慰霊ができることを最優先。そこに、現在やっているおがさわら丸で行くことができれば、子供たちも、そして限られていますけれども、一般村民も一緒に行って慰霊ができるわけですから、そこを目指していくと。こういう基本的な考えということをご理解いただければと思います。

○委員長（杉田一男君） 清水委員の返還50周年も含めた硫黄島の取り組みに関しては、清水委員も返還50周年実行委員会の委員でもあるので、それが返還50周年の中で考えられるものがあるのであれば、その実行委員会の中でも発信しながら、いい方向へ持っていくことができれば一番いいのではないかと思いますので、その辺は委員としてまた改めて考えていただきたいと思います。

多分、訪島という形でくくってしまうと、今の村長の答弁が今の時点ではベターだと思うので、その辺は了解していただきたいと思います。

私からお願いしておきたいのは、6月30日が今のところ記念式典という形で考えられているみたいですがけれども、私はこの訪島事業に関しては、硫黄島の旧島民の思いや、また在来島民の思いも含めると、今まで6月に訪島事業を行っていましたがけれども、来年、12月いっぱいまでが返還50周年の年ということを考えれば、できる方策があれば、6月にこだわらずに考えていただきたいと。今村長のお話の中にももう村や小笠原海運だけでは解決できないような大きな問題があるということでしたので、難しい中ではあるけれども、やっぱり来年中に何とか訪島事業ができるように、村長に改めて頑張るようよろしく願いしたいと思います。

ほかにございますか。

一木重夫委員。

○委員（一木重夫君） 数週間前に、浜松でヘリコプターのUH-60Jが墜落をしてしまって、隊員4名が行方不明になり、またそのご遺体が収容をされるということがありました。その報道を聞いて、大変危惧したのが、ここ小笠原から硫黄島まで利用しているヘリコプ

ターも、また同じ型のUH-60Jですよ。飛行停止にはなっていないんでしょうけれども、あの事故で、ただでさえ老朽化というところで運行回数が減らされている中、何かしら事故の影響というのはあったのかなと思ひまして。その辺は何か情報はないでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） あのような事故が起きましたので、同型の機材で運航している当村の急患搬送への影響が懸念されましたけれども、特にその影響があるという形での話は伺っておりません。

○委員長（杉田一男君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず今、実務方が答えたとおりで、急患搬送もやっていただいていますので、今のところUS-2の事故の後、US-2が運行しなくなったという状況とは違うということは一つでございます。

ただ、一木委員からご指摘がありましたように、あの機種は老朽化をしているということで、ヘリコプターはどうやら、飛行時間で表すようですが、我々がいろいろな交渉するときに、ヘリコプターの寿命を延ばすために別の方法を考えてくださいというようなことで今度の議会もともに行く視察も東京経由で硫黄島にというようなことが出てきているわけです。

現在もまだ急患搬送にはUS-2が再登場してはいませんので、今の形なんですね。ですから、今使っているヘリコプターが少しでも長い時間、使えるようにしないと、村民の安心ということが確保できなくなりますので、そこについては我々なりに、いろいろな配慮をしていきたいと、こう思っておるところでございます。

○委員長（杉田一男君） 一木重夫委員。

○委員（一木重夫君） ヘリコプターの、あれはたしか1995年製で、もう二十何年たっておるんですけども、村民の安心・安全をやっぱり担ってもらっている機材、ヘリコプターがあるので、老朽化が進んでいるのだったら、ぜひともその更新を早めてほしいんだという要望を、防衛省にもしていったほうが政治的にいいのかなというのが、ちょっとあの事故を、報道を見て思いました。

UH-60Jというのは、もともとアメリカで開発されて、それを三菱重工業がライセンスを取って日本でつくっているものですが、すでにアメリカでは、UH-60の後継機というのが、出つつあって、それはティルトローター機なんです。普通のヘリコプターではないんですね。ああいうオスプレイと同じようなティルトローター機がUH-60

の後継機として決まって、お披露目もされている。という部分でも、今、また小野寺防衛大臣でもあるので、ヘリコプターの硫黄島の更新を要望していかなければいけないのではないかなど、自分の中では思っているんですけども、村長いかがでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今のUH-60Jの寿命の話が出てから、折に触れ、そういうお話を防衛の方とはさせていただいておりますし、当然のことながら後継機種についても、いろいろな内部的に議論をされていることと思います。いずれ寿命の来る機材でございますので、その辺を国も放っているわけでは決してありませんので、今、一木委員からご指摘をいただいたようなことは、今まで折々ございましたけれども、いつかきちんとした形での要望活動ということは、またそれは議会とともに、要望書を提出するとか、そういうことが必要になってくると思いますので、そのときにはご協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

○委員長（杉田一男君） ほかにございますか。

（挙手する者なし）

○委員長（杉田一男君） 質疑はもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

---

#### ◎閉会中の継続調査について

○委員長（杉田一男君） 次に、日程第5、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の事件調査のために、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることといたします。

---

#### ◎閉会の宣告

○委員長（杉田一男君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(杉田一男君) 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして硫黄島調査特別委員会を閉会します。

ご苦労さまでした。

(午前11時33分)